

## 別紙 1

## 論文審査の要旨

報告番号	甲第 3176 号	氏 名	齋藤 綾華
論文審査担当者	主査 内田 直樹 教授		
	副査 小野 賢二郎 教授		
	副査 小風 暁 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本論文は、昭和大学附属烏山病院における措置入院患者の臨床的な特徴を明らかにすると共に、措置入院以外の患者との比較を行ったものである。</p> <p>平成 22 年から平成 26 年に入院した患者 2326 例の診療録を調査した。その結果、措置入院群において、男性の比率が高率で平均年齢が低く、入院回数が少なく、初回入院の比率が有意に高かった。また措置入院群では、隔離室と Haloperidol 点滴の使用率が高い一方で、ECT の使用率、自宅退院率は低かった。診断的には、F1 圏、F2 圏、F6 圏が高率で、F3 圏、F4 圏、F8 圏が低く、他害関連の問題行動は 538 件、自傷関連の問題行動は 173 件、医療観察法対象行為も 88 件含まれていた。</p> <p>今回の調査から、措置入院患者はそれ以外の患者と背景や患者層に違いがあり、圧倒的に他害行為を理由に入院に至っていること、現代医学では入院治療による解決が難しく、司法、医療どちらの処遇がふさわしいかの判断が難しい患者や問題行動が含まれている可能性があること、医療観察法による司法の関与が必要と考えられる問題行動を有しても、措置入院と判断され、医療の枠組みで当該患者のフォローが行われている患者がいることが判明し、精神疾患患者に対する「司法・医療」の対応の課題が明確となった。</p> <p>以上の結果より、本論文は学術的にも価値が高く、学位論文に値するものと判断した。</p>			
論文題名：スーパー救急病棟における措置入院患者の現状と課題			
掲載雑誌名：精神医学 第 61 巻（第 6 号）2019 年			

(主査が記載、500 字以内)